



# みどりの風

平成30年6月1日発行  
校報 第553号  
〔みどりの風 第96号〕  
練馬区立関町北小学校

71.6%

校長 大野 泰弘

先月26日(土)の運動会には、休日にもかかわらず、1300名を越える、ご来賓の皆様、保護者・ご家族の皆様にお越しいただき、子どもたち一人一人が真剣に演技や競技、そして、高学年は係活動に取り組む姿に温かいご声援を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。子どもたちが「みどりの風」を感じながら、「風になって」走ったり、演じたりする素晴らしい姿をご覧いただくことができました。来年から校舎等改築の工事が始まりますので、現在の校庭を使っの運動会は今回が最後になる見通しですが、皆様の心のアルバムにも子どもたちの姿が深く印象付けられたことと存じます。

さて、6月は、その運動会に燃えた心と体を少し冷やして、友達との関係を振り返り、より深い友情を育んでもらうことを願って、「ふれあい月間〔第1回〕」となっております。そして、本校では「読書月間」としても位置付けて、読書活動を通して、自らの心に豊かな栄養素を届けてもらいたいと思っています。

ところで、タイトルの「71.6%」とは、何の数字がお分かりでしょうか。実は、「日常生活の中で、不安や悩みがあると答えた小学5・6年生の割合」〔平成21年度 厚生労働省全国家庭児童調査結果より〕を表しています。つまり、10人中7人程の高学年の子どもたちが何らかの不安や悩みを感じながら生活しているということです。この数字を多いと見るか、少ないと捉えるかは人によって異なるでしょうが、10年近く前の調査であるとは言え、現在の子どもたちも何らかの不安や悩み等をもって生活しているのではないかと考えるのが自然でしょう。そして、その要因としてあげられたこととしては、「勉強・進路」、「自分の性格や癖」、「顔や体形」、「学校生活」などがありました。

いつの時代も、心に大きな不安や悩みを抱えていると、子どもによっては、友達との人間関係、教師との信頼関係にも影響を及ぼしかねませんし、その子自身の心や体にも様々な変化を与えてしまうことにもなります。「今の自分に、自信がもてない。食欲がなくなり、眠れない。自分自身を傷付けたくなってしまふ。イライラ感が消えない・・・」このような辛い状況にありながら、誰にも相談することができない。そのような「心のSOS」を発信できず、一人で抱え込んでしまふ。これでは、その子の心はますます閉ざされてしまふ、その悩みなどは深まるばかりです。

そこで、子どもたち一人一人が、「心のSOS」をどのように周囲の大人に伝え、心の不安や悩みを解消させることができるか、その方法を身に付けることができるように、東京都教育委員会では、今年度より「SOSの出し方に関する教育」を推進していくことになりました。冒頭の数字は、その連絡協議会で示された資料の中にあったものです。

今後、本校でも高学年から「SOSの出し方に関する教育」を適切な時期に実施していくこととなります。以前、教師が日頃から児童生徒へどのようにかわればよいか、その一つの在り方として、「T(TELL:心配していることを伝える) A(ASK:率直に尋ねる) L(LISTEN:絶望的な気持ちを傾聴する) K(KEEP SAFE:安全を確保する)の原則を活用しながら、教師が児童生徒から相談できる存在になることが大切であり、児童生徒が感じている孤立感に寄り添っていくことのできる懐の深さをもつことが重要である。」〔頭文字をつなげると、TALK〕というお話を聞いたことがあります。

子どもたちからは「心のSOS」を伝えてもらいたいですし、それができるように、私たちが「TALKの原則」を身に付けて、子どもたち一人一人の心に寄り添うことができる「心の広さ」を養っていくことが求められます。6月の「ふれあい月間」を通して、本校の子どもたちの不安や悩みが「71.6%」より少しでも低くなるよう、あらためて心の在り方を見つめ直していきたいと考えています。

## <お知らせ>

- ・来年から始まる校舎等全面改築の工事について、5月29日〔火〕に「保護者・区民対象の説明会」のご案内を送付いたしました。説明会は、「6月23日〔土〕14時から本校体育館で」開かれます。お時間がありましたら、ぜひご出席ください。